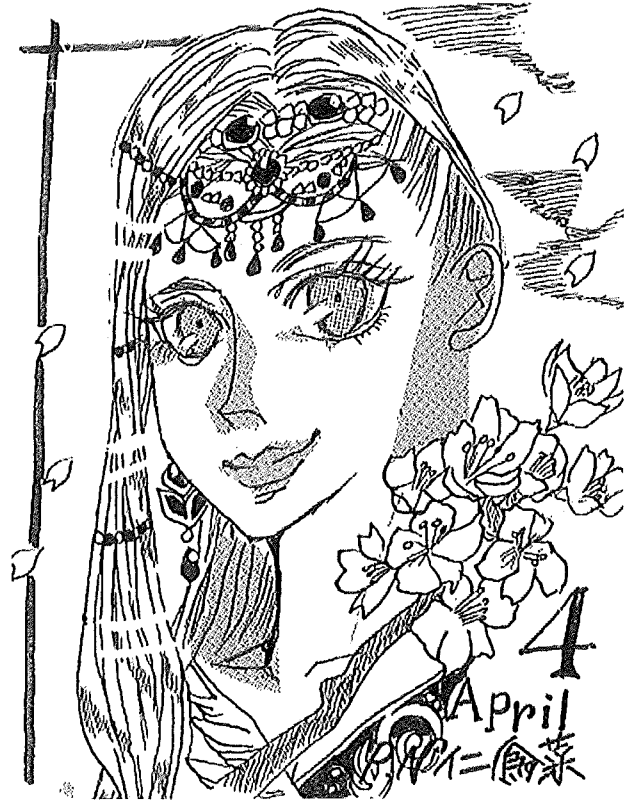
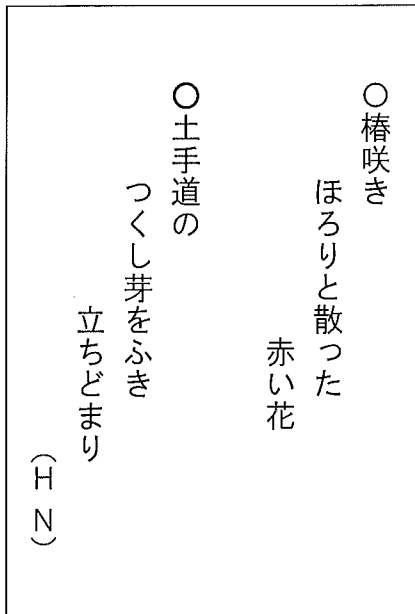


# 旅立ち

社会福祉法人しらとり会  
利用者通信 (NO. 48)  
平成31 (2019) 年4月1日発行

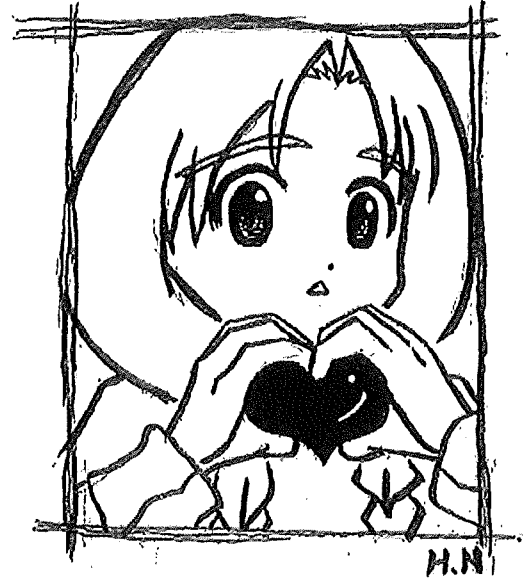
今月は、6名の方からの投稿です。



同志社大学物語 《受験編》 ～ あとがきにそえて ～ 受験する君へ (前半)

- ①あの当時は、同志社大学の商学部だけ数Iがあり、異常に偏差値が低かった。
- ②1浪目は、11/7をもって、駿台予備学校に行かずに、受験を諦め家でフラフラし、共通一次試験に失敗する。メンタル面がきつかった。
- ③2浪目も、河合塾をクラス落ちしなかったにもかかわらず、共通一次試験に失敗、その上、京都大学文学部を受けたのは、記念受験である。その証拠に、関西大学(文学部)、立命館大学(文学部)、同志社大学(文学部)を落としている。不本意というか、高校のY先生の「浪人しても伸びない」という指摘は当たる。

(Y Y)



落語・相の手都々逸・文房具

○「僕、ノートなんだけど……」。

(いつも有難う)

「いや、頼まれると、ノーとは言えないんだ」。

○「僕、クレヨンなんだけど……」。

「もっと大切に使うてくれよん！」。

(岡本 祐子)

- 御前会議がある。
- 法務大臣、検事総長、最高裁長官の公開の超法規的措置決定機関で、憲法第14条第1項法の下での平等に違反する権力者だけの優遇平等機関である。
- 権力者や財界の大物が犯罪を犯した場合の裁判にかけないための最後の優秀な弁護人が3人いる。
- これが平民であつたら御前会議は開かれぬのは明らかである。
- 警察庁も平民にだけ厳罰化をうたっているが、国策捜査をしているのはどこであろうか。
- 法律は国民には厳しく権力者には甘い。
- これを解決するには市民立法権を確立し道州制を実現するしかない。

(加藤忠男)

【投稿の募集】

利用者の皆様からの投稿をお待ちしています。

次回の締切は、4月15日(月)です。

『旅立ち』編集委員：加藤、本川、A-Z、H.A.